



松井正一 鹿沼市長

「鹿沼市文化協会新春のつどい」は、令和7年1月18日に「そば割烹日見」にて、会員61名の参加で開催いたしました。今年は例年になく暖かい1月となり、天気を心配することなく実施することができました。



谷中恵子 鹿沼市議会議員

式は、「新春のつどい」の主催者挨拶として、鈴木貢会長代理の高橋進副会長が今年度の文化協会事業であるギャラリーフェスティバルや文化祭の実績などを報告しました。



大貫毅 県議会議員

次に、松井正一市長、谷中恵子議長、大貫毅県議、片柳伸一会長代理の設楽光江副会長から、新年を祝うお言葉をいただきました。その後、来賓の神谷幸伸県議、湯澤英之県議、福田義一副市長、中村仁教育長、藤田義昭市議、宇賀神敏市議、船生雅秀市議、佐藤誠市議、岩本久美子参与の方々を紹介いたしました。



日本舞踊連合会によるアトラクション



「新年のつどい」会場の様子

祝宴は、岩本久美子参与の乾杯の発声で始まり、「新春のつどい」は会員の皆様が1年の始まりとして楽しみにしているの、とても活発に交流されていました。また、お料理も美味しかったと好評でした。

祝宴のアトラクションは、「日本舞踊連合会」の岩井流舞踊会と藤扇系花会の皆様が、新春に相応しい艶やかな衣装で華麗な舞を踊っていただきました。会は予定時間を超えても話が弾んでいる様子でしたが、青木宗栄副会長の閉式のことばで盛会のうちにお開きとなりました。

（事務局 福田 由子）

昨年は、部門事業の「ギャラリーフェスティバル」が開催されました。書道部会では、はがきに漢字一文字を書く体験や作品が展示されました。絵手紙部門では、絵手紙の展示や体験を行いました。マンガ・イラスト部門では、「落書きコーナー」や「マンガアニメによるまちおこし」についての講話が行われました。写真部会では、写真の展示を行い、撮影を小説や俳句にも視野を広げた「フォト俳句」などの作品を展示しました。



会長 鈴木 貢

「令和7年鹿沼市文化協会新春のつどい」報告

かぬま文化

つくるう 伸ばそう 鹿沼の文化

No.180

発行人 鹿沼市文化協会
発行責任者 会長 鈴木 貢
編集委員会 委員長 小林 夏江
印刷所 晃南印刷(株)

謹賀新年

ました。

しかし、来場者の87%が60歳以上であり、若い人たちの参加を広めていくことが課題になりました。

さらに、「鹿沼市民文化祭」は「下司愉宇起うたのつどい」で始まり、23の事業の作品の発表や演技を披露して、5,000名を超える参加がありました。

健康で活躍されますことを祈念して新年のあいさつとします。

鹿沼市文化協会

会長 鈴木 貢

目次

令和7年新春のつどい……	1
新年あいさつ……	1
裏千家萩原教室……	2
フラワーデザイン……	2
華道草月流大沼教室……	3
鹿沼市華道連盟……	3
栃木県文化振興大会……	4
編集後記……	4

文化協会茶道部への入会

裏千家荻原教室 荻原 宗照

諸先生からの入会の誘いがあつた時、生徒達に希望を聞いたところ、「気楽な方が良いでしょう」とか、「着物を着てお茶を点て皆でお話しするのが楽しみです」という声がありました。また、「茶席に出てお点前をしたりお運びしたりするのもお茶を習う上で励みになります」という賛成の声もあり、未熟ながらも入会させていただく事にしました。



裏千家荻原教室にて

入会して半年にも満たない私に、高山会長より12月5日に順番だからと言う事で原稿の依頼がありました。さて、何を書いたらいいのか迷いましたが、11月3日文化祭の茶会で池田先生のお席の手伝いをさせていただく機会があり、その事を書いて見ようと思いました。



「竹取物語」のテーマで、軸が円能斎の「天筆和合楽」陶兵衛の砵の花入に天人草と西王母の椿を生け、半七作の「竹の絵」の手桶の水指、薄器は御所車の平棗、主茶碗は中に不二の絵のある9代大樋長左衛門の黒茶碗で、銘が「閑座」等々、見事な取り合わせの茶席でした。亭主とお正客との問答も、和やかで大変すばらしかったです。

お点前やお運び水屋の人達も、和気藹々とスムーズにお手伝いができ、お客様も静かな雰囲気の中で楽しい一時を過ごしていただけたのではないかと思います。

まだまだ未熟な私ですが、諸先輩の先生方の御指導をいただいて日々精進していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

不易流行

フラワーデザイン副会長 小太刀 昌子

フラワーデザイン部会は鹿沼市民文化祭への参加と市民向けにフラワーアレンジメントを学ぶ機会も設けた講習会の開催が主な活動です。

昨年はどうしたら観覧者を増やせるのかという課題に直面していた最中、役員全員一致の意見で10月19日・20日のフラワーデザイン展と同時開催で親子向けのハロウィンアレンジメントの講習会を開催いたしました。

人数と会場の都合上、午前と午後の二部に分けて開催いたしました。出展者の手も借りながら、展示会と講習会の同日開催は想像以上に大変でした。しかし、参加者親子の花を通じて楽しい笑い声やたくさん笑顔のコミュニケーションで、私たちは疲れも吹き飛ばすほどの歓びが湧いてきました。

教わるものの方が大きいという

は正にこのことです。また、イクメンお父さんのご参加もあり、ご家族みんなで子育てをしている姿が微笑ましく印象的でした。

フラワーデザイン部会の活動は自己の心技の成長とともに、ご来場や学ぶ市民の皆様を笑顔にこれからのフラワーデザインを広める活動に精進してまいります。

さて、近年のSNSによって世界とつながりタムリな情報が容易に入ってくる時代へと急激に変化しています。世界中の花の産地から市場、小売店、デザイナー、作品のHow to 動画等、だれでもが興味をそそられる内容がふれていきます。例えばそれらを見たフラワーデザイナーはインスピレーションが湧いてきたり、初め

て花をアレンジする方にも身近でスタートしやすい環境を作っていると感じています。そして今まで全くなかった花業界の新たなイノベーションを生むことにもつながりつつあります。さらには手描きでデッサンしていたものがAIの技術で半自動化されるのも未来のことではなくなりました。

一方では長年にわたる絶え間なく守られてきたフラワーデザインの基礎をしっかりと継承し、花を通しての人間ならではのコミュニケーションの重要性を感じております。変わらな技術と変わる技術そのどちらにも花の心はこれからも進化し続けるフラワーデザイン業界であることを願います。



鹿沼市民文化祭出品作品 小太刀昌子

「華道」は楽しい

華道草月流大沼教室 大沼 円虹

第46回鹿沼市民文化祭華道展は令和6年10月19日、20日に開催され、華やかな素晴らしい華道展が開催できたと実感しております。華道展は、出展者の益々の技術向上と来場者が作品を見て心を癒していただくことにあると思います。

作品は前日の18日に、余裕を持って花木等の花材を準備し、持ち前の技術を生かし生け込みま

す。それぞれの生け込みが終わると、展示会場の入口正面中央に設けられた花席に花材を1本ずつ生け込みました。この作品は、全員が協力して生け込んだ大きく豪華な作品となり、各自の作品と共に会場の華やかさをより一層醸しだしていただきました。来場者は個々の作品を鑑賞すると共に、全員参加の作品を鑑賞し、堪能して心癒されたと思います。



鹿沼市民文化祭出品作品 大沼円虹(左)



鹿沼市民文化祭華道展共同作品「花のちから」

茶華道 協会は、「茶華道相互の親睦を図り、茶道、華道の発展

茶華道 協会は、「茶華道相互の親睦を図り、茶道、華道の発展に終了できたことは、役員並びに出展者全員の協力の賜物でした。

花と向き合う

鹿沼市華道連盟 会長 深井 芳恵

鹿沼市華道連盟は、昨年5月1日に発足されました。高校生から70歳代まで、小原流、華道家元池坊、草月流、龍生派、花友の会の30名で、日々楽しく活動しております。

今年度の主な活動は、3度の今宮神社花手水ご奉納、花木センターで2度の盆栽展、さつき展とのコラボ花展、まちの駅本館にて2度の花展、鹿沼市民文化祭華道展出展などがありました。



鹿沼市民文化祭にて鹿沼市華道連盟

「いけばな」です。いけばなの歴史は、6世紀半ばの仏教伝来から、京都に聖徳太子によるいわゆる六角堂頂法寺が建立され、その初代住職は小野妹子といわれ、朝夕仏前に花を供えた(供花)から始まったといわれています。住職は境内の池(今も存在)のほとりに住坊



鹿沼市民文化祭出品作品 深井芳恵

を構えたことから「池坊」の家元と兼務してきました。14世紀、生ける花の初期様式が確立、16世紀、天皇貴族によって花の道が高められ、桃山から江戸初期にかけて立花(たてばな・りつか)が様式的に完成し、大衆化されていき、18世紀半ば、生花(しょうか・せいしか)が考案されて多くの流派が誕生します。そして盛花、自由花が誕生します。

この長い歴史の中で私達は、その伝授物を後世に継ぐ通過点に立っています。華道人口が減少している今日、鹿沼市華道連盟は、より多くの方々に華道を知っていただき、いけばなの楽しさ、素晴らしさを伝えていけるよう努力をしています。

第48回栃木県文化振興大会報告

地域文化活動の交流

鹿沼市文化協会 副会長 青木 宗栄

第48回栃木県文化振興大会が、1月31日とちぎ岩下の新生姜ホール（栃木文化会館）で開催され、鹿沼市文化協会からは23名が参加しました。呈茶席の「華開五葉」のめでたい掛けもの、花は寒ぼたんのお席で一服頂きました。ホールに入ると、「創作太鼓保存会西方ふるさと太鼓」による

郷土芸能の力強い演奏に迎えられました。文化活動を通し各地域との交流を深める目的に、毎年、開催地は変わり新しい文化活動交流に刺激を感じます。

記念式典では栃木県・栃木県文化協会等の主催者の挨拶から始まり、来賓の方々の祝辞をいただき、栃木県

文化選奨と文化奨励賞の表彰式を行いました。とても立派で素敵なお二人の特別展示品を間近で見られて感動しました。

でした。その後、舞台上の出演者と客席とで「ふるさと」を唄いフィナーレとなりました。



呈茶席

栃木県文化選奨
竹工芸作家 平澤 登氏
(展示作品) 花籃
栃木県文化奨励賞
陶芸家 井口大輔氏
(展示作品) 壺・茶盃
式典後のアトラク

は、書道、絵画、絵手紙、熱したコテで板に画いた焼絵、写真、文芸と様々な展示があり、工芸品や手芸品は丁寧に作られた力作が展示されていました。観賞されている方は、作品についての説明を熱心に聞き、文化の交流を深めているようでした。



文化協会会員作品展

シオンは「栃木市・壬生町 時間の旅」と称し、詩吟剣舞・船頭歌、八木節、歌と箏、合唱と盛り沢山のプログラム

また各コーナーに立派な生花が活けられ、活動のたゆまぬ努力と和の成果が感じられました。



文化協会会員作品展

男体山を仰ぎ見、庭の福寿草が咲き出しました。令和七年の幕開け。鹿沼市文化協会の新春のつどいが、粛々行われました。

昨年は鹿沼市文化協会の一大イベントになった、ギャラリーフェスティバルを開催しました。

絵手紙、書道、マンガイラスト、写真部門がそれぞれに体験講座や展示等を行い、会のPRとなり、成功裏に終わりました。

本年は乙巳。竜頭蛇尾に終わるのではなく、殻を破り、輝かしい一年となることを願っています。そして、蛇の道は蛇。まさに、鹿沼市文化協会の皆様方のご活躍で、文化の花を咲かせましょう。

編集後記

《編集委員会》

小林 夏江
板橋 和子
寺崎 昌子
斎藤 千恵子
大貫 宗正



栃木県文化振興大会 栃木市にて

アトラクション「壬生城懐古 吟舞道西峰流」

下都賀西部ブロック(栃木市・壬生町)文化協会会員作品展